



**渡航外来開設にともなう
ワクチンの導入と安全性の検討について**



はじめに

外国では日本にいる時よりも感染する危険が大きい病気があり、予防接種を受けることで予防できる病気は限られていますが、予防接種を受けることで感染症にかかるリスクを下げるすることができます。

必要な予防接種は、渡航先、渡航期間、渡航形態、自身の年齢、健康状態、予防接種歴などによって異なります。事前に渡航先の感染症情報を収集するとともに、それぞれの予防接種について理解した上で、渡航者一人一人が、どの予防接種を受けるかを決める必要があります。

我が国では、6ヶ月以上海外で勤務される際には、その赴任前および帰国後に健康診断の実施が法律により義務付けられています。



徳島大学病院では国際化に対応すべく 渡航外来を開設(2016年11月)



自分自身を感染から守り、周囲の人への二次感染を防止する

渡航者の渡航先・期間・年齢の情報をもとに適切な渡航に関する安全情報の提供と必要なワクチン接種を行うことを目的としています。

ワクチン接種について

- ・外来で取り扱うワクチンにつき倫理審査を行ったうえで渡航者に自由診療として提供を行います。
- ・国内で承認されていないワクチンもあります。渡航外来等の担当医師とよく相談してください。
- ・不明点などを担当医師に確認し、ワクチン接種に同意するかどうか渡航者自身が決定してください。
- ・渡航者が同意された場合、担当医師がその旨をカルテ記載し、同意取得とします。

ワクチン接種除外対象者について



次に該当する方は除外します。

- ・渡航外来で取り扱うワクチン・内服薬の禁忌に該当する場合。
- ・被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合は、除外する。
 1. 明らかな発熱を呈している者
 2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
 3. ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがある明らかな者
 4. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者
 5. 生ワクチンの接種を受けた者で28日未満また他の不活化ワクチンの接種を受けた者で7日未満の者

予想される利益(効果)と不利益(副作用など)

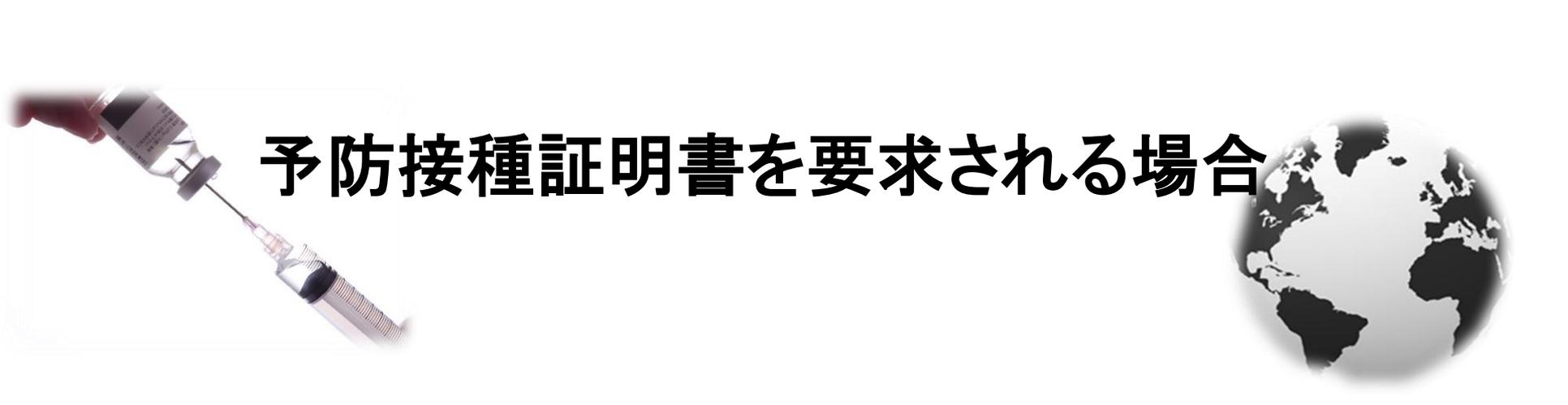


・各ワクチンの添付文書に記載のある安全情報から接種したワクチン・または予防内服で起こり得る副反応の全てが発生し得る可能性があることを十分説明いたします。

・副反応で重篤な事象に関しては、国内承認のワクチン・予防内服により健康被害が発生した場合には、「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が受けられます。

http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/

・輸入ワクチンについては、輸入ワクチン副作用救済制度規定(医師の無過失時の補償制度)平成19年度 厚生労働省科学研究補助金(新興・再興感染症研究事業)「海外渡航者の予防接種のあり方に関する研究」における「輸入に係る未承認ワクチン副作用被害の補償制度に関する検討」(平成20年1月18日・三輪亮寿先生ご発表)を受け、(株)インターナショナル メディカル マネージメント(以下IMMC)が設けている「自社補償制度」として輸入ワクチン副作用被害救済制度を利用します。



予防接種証明書を要求される場合

入国する時に、黄熱の予防接種証明書の提示が求められる国があります。

主にアフリカの熱帯地域や南米の熱帯地域の国々です。

また、黄熱の流行国から入国するときに予防接種証明書の提示が求められる国もありますので、乗り継ぎの時に証明書が必要になる場合もあります。

また、学校に入学する時に予防接種証明書を要求される場合もあります。

詳しくは渡航先の国の在日大使館や入学先、お近くの検疫所などでおたずねください。

料金について

診察料

渡航外来基本料初回時(相談料を含む)

5,400円

渡航外来基本料2回目以降(再診時)

1,728円

英文証明料

一通につき

5,792円



区分	金額
渡航外来ワクチン接種料	
A型肝炎ワクチン エイムゲン	5,508円
B型肝炎ワクチン ビームゲン	2,808円
B型肝炎ワクチン ヘプタバックス-II	2,808円
破傷風ワクチン沈降破傷風トキソイドキット「タケダ」	972円
狂犬病 阻止区培養不活性化狂犬病ワクチン	11,556円
日本脳炎ワクチン ジェービックV	3,888円
麻しん 乾燥弱毒性麻しんワクチン	3,456円
髄膜炎菌ワクチン メナクトラ筋注	19,872円
渡航外来輸入ワクチン接種料	
A型肝炎ワクチン(輸入品Harvix)	11,664円
HA+HBワクチン(輸入品Twinrix Adult)	12,420円
狂犬病ワクチン(輸入品Rabipur)	9,612円
コレラ経口ワクチン(輸入品Dukoral)	12,096円
腸チフスワクチン(輸入品TyphimVi)	7,776円
髄膜炎菌ワクチン(輸入品Mencevax ACWY)	10,044円
3種混合ワクチン(輸入品Tdap Boost rix)	8,424円

※徳島大学病院諸料金規則より一部抜粋

1. 予約申し込みの流れ(完全予約制)

1. 渡航予定者から徳島大学病院予約センターに
申し込み(FAX又はメール)



2. 渡航外来担当医師から渡航予定者へ電話連絡
・渡航先の確認、接種予定ワクチンの決定、予約日の確認



3. 徳島大学病院予約センターから渡航予定者へ予約票を送信

2. 受診当日の流れ

1. 本院到着後、「初診受付窓口①番」へ(渡航外来の旨を受付へ申し出)
・持参するもの:本院診察券、予約票、健康保険証、母子手帳(診察時に提出)



2. 診察券、外来受付票を受け取り、内科外来窓口(3階H)へ



予防接種後の注意！！

1. 予防接種後1時間くらいはご自身で経過観察を行うようにして下さい。
きわめてまれではありますが、重篤な副反応(アナフィラキシー)は通常30分以内に起こるという理由からです。
2. 接種当日はいつも通りの生活でよいですが、飲酒、激しい運動等は避けて下さい。入浴は差し支えありませんが、発熱した場合には避けて下さい。
3. 接種後から約2週間までに、接種部位の発赤などの局所反応やまれに痙攣、発熱、頭痛、筋肉痛等の全身反応が出ることがあります。副反応と思われる症状が出現した場合には、当外来にご連絡下さい。



海外でかかりやすい感染症



感染経路	生活上の注意	感染症	主な流行地域	主な症状	予防接種有無
飲食物から感染	<ul style="list-style-type: none"> ・ミネラルウォーターを飲む ・加熱した料理を食べる 	旅行者下痢症	発展途上国	下痢、嘔吐	
		A型肝炎	発展途上国	発熱、黄疸、全身倦怠感	○
		ポリオ	南アジア、アフリカ	発熱、手足の麻痺	○
		腸チフス	発展途上国 (特に南アジア)	発熱、腹痛	○*
患者の飛沫 などで感染	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがい ・人ごみを避ける 	インフルエンザ	全世界	発熱、咽頭痛	○
		結核	発展途上国	咳・たん、体重減少	○
		流行性髄膜炎	西アフリカなど	発熱、意識障害、頭痛	○*
蚊の媒介	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚を露出しない ・昆虫忌避剤を塗る ・殺虫剤を散布する 	マラリア	発展途上国 (熱帯・亜熱帯)	発熱、悪寒	
		デング熱	東南アジア、中南米	発熱、発疹	
		日本脳炎	アジア	発熱、意識障害	○
		黄熱	熱帯アフリカ、南米	発熱、黄疸	○
性行為で感染	<ul style="list-style-type: none"> ・行きずりの性行為を控える ・医療行為にも注意 	B型肝炎	アジア、アフリカ、南米	発熱、黄疸、全身倦怠感	○
		梅毒	発展途上国	性器潰瘍、発疹	
		HIV感染症	全世界 (とくに発展途上国)	発熱、リンパ節腫脹	
動物から感染	動物に近寄らない	狂犬病	全世界 (とくに発展途上国)	恐水発作、けいれん	○
傷口から感染	傷口を消毒する	破傷風	全世界	口が開かない、けいれん	○

* 腸チフス、流行性髄膜炎には予防接種がありますが、腸チフスは日本では認可されていません。

地域別に推奨される予防接種（○：推奨する）

ワクチン名 地域名	短期滞在者		長期滞在者 (短期旅行者でも通常の観光ルート以外に立ち入る場合を含む)						
	A型 肝炎	黄熱	A型 肝炎	B型 肝炎	破傷風	狂犬病	黄熱	日本 脳炎	ポリオ
東アジア (中国、韓国など)	○		○	○	○	○		○	
東南アジア (タイ、ベトナムなど)	○		○	○	○	○		○	
南アジア (インドなど)	○		○	○	○	○		○	○
中近東 (サウジアラビアなど)	○		○	○	○	○			○
アフリカ (ケニアなど)	○	○ (赤道周辺)	○	○	○	○	○ (赤道周辺)		○
東ヨーロッパ (ロシアなど)	○		○	○	○	○			
西ヨーロッパ (イギリス、フランスなど)					○				
北アメリカ (合衆国、カナダなど)					○				
中央アメリカ (メキシコなど)	○		○	○	○	○			
南アメリカ (ブラジルなど)	○	○ (赤道周辺)	○	○	○	○	○ (赤道周辺)		
南太平洋 (グアム、サモアなど)	○		○	○	○	△ (島による)			
オセアニア (オーストラリアなど)					○				

予防接種の計画は余裕をもって早めに！

予防接種の種類によっては、数回(2~3回)接種する必要のあるものもあります。海外に渡航する予定がある場合には、なるべく早く(できるだけ出発3か月以上前から)医療機関や検疫所で、接種するワクチンの種類と接種日程の相談をしてください。

予防接種の種類	対象
黄熱	感染リスクのある地域に渡航する人
A型肝炎	途上国に中・長期(1か月以上)滞在する人。特に40歳以下
B型肝炎	血液に接触する可能性のある人
破傷風	冒険旅行などでけがをする可能性の高い人
狂犬病	イヌやキツネ、コウモリなどの多い地域へ行く人で、特に、近くに医療機関がない地域へ行く人 動物研究者など、動物と直接接触する人
ポリオ	流行地域に渡航する人
日本脳炎	流行地域に長期滞在する人(主に東南アジアでブタを飼っている農村部)

麻しん(はしか)の予防接種について、国際保健機関(WHO)では、10代や成人の方で、2回接種を受けていない場合、海外渡航前に予防接種を受けることを検討すべきとしています。本邦では特例措置は平成25年で終了(青年期に接種)

ワクチンの接種回数と有効期間

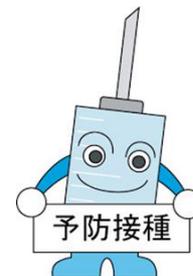
ワクチン名	接種回数	接種日	有効期間
A型肝炎	3回	0日、2～4週後、半年～1年後	5～10年間
B型肝炎	3回	0日、4週後、半年～1年後	10年以上
破傷風* ¹	3回	0日、4週後、半年～1年後	10年間
狂犬病* ²	3回	0日、4週後、半年～1年後	2年間
黄熱	1回		10年間
日本脳炎* ³	3回	0日、4週後、半年～1年後	4年間
ポリオ* ⁴	2回	0日、6週後	10年以上

* 1 破傷風: 1968年以降に生まれた方は、小児期に3種混合として接種を受けていることが多く、その場合は1回だけ接種をします

* 2 狂犬病: 輸入ワクチンは0日、1週後、3～4週後の接種間隔をとります

* 3 日本脳炎: 大人の場合、通常は1回の追加接種のみを行います

* 4 ポリオ: 大人の場合、通常は1回の追加接種のみを行います



ワクチン等の概要



• A型肝炎

A型肝炎は食べ物から感染する病気で、アジア、アフリカ、中南米に広く存在する。発症すると倦怠感が強くなり、重症になると1か月以上の入院が必要となる場合があり、途上国に中・長期(1か月以上)滞在する者に推奨するワクチン。特に60歳以下の者は抗体保有率が低いため、接種が勧められる。エムゲンのワクチンは2~4週間隔で2回接種となる。6か月以上滞在するのであれば、6か月目にもう1回接種すると約5年間効果が期待される。輸入ワクチン1回タイプのA型肝炎ワクチンHavrixは渡航の出発日まで日数がない者が対象となる。

接種禁忌

過去の接種で重篤な副反応があった者

<Havrix: 一般的副反応>

- 10%以上副反応
局所の過敏症、接種部位の痛み発赤、倦怠感、頭痛
- 1%以上10%未満
食欲不振、眠け、消化器症状(むかつき、嘔吐、下痢)、局所の腫脹、硬結、37.5℃以上の発熱 等
- 0.1%以上1%未満
鼻炎、めまい、全身の発疹、筋肉痛、筋肉硬化、インフルエンザ様症状
- 0.01%以上0.1%未満
感覚鈍麻、掻痒症、悪寒戦慄 等

<Havrix: 頻度不明>

アナフィラキシーショック、血清病、痙攣、血管炎、血管神経性浮腫、蕁麻疹、関節痛等

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生した場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

• B型肝炎

B型肝炎に感染しているヒトの血液や体液を扱う機会の多い医療関係者はワクチン接種が必須。B型肝炎の感染者が多い地域(目安としてHBs抗原陽性率が2%以上)への渡航者も滞在期間や目的に応じてワクチン接種が必要となる。以前は輸血や医療従事者の注射針による針刺し事故など血液を介した感染が問題とされていたが、現在では家族・保育園の水平感染、B型肝炎(活動期)の母親から生まれる新生児期を中心とした感染と、思春期以降の性行為(唾液や体液の濃厚接触)を通じた感染の3つが主な原因となっている。

一般に健康な(免疫不全でない)成人の感染では、ほとんどが一過性感染で、急性肝炎の経過をとるものと不顕性感染となるものがあり、いずれも終生免疫を得る。一過性感染例では劇症化して死亡する例(約2%)を除くと、多くの場合は、約3か月で肝機能が正常化し治癒する。国内承認ワクチン;ビームゲン、またはヘプタバックスワクチンは4週間間隔で2回接種し、さらに、20~24週間後に1回接種する。輸入ワクチンを用いる予定はない。添付文書を用いて安全性情報を提供する。

• A型肝炎+B型肝炎

輸入ワクチンTwinrixは、A型肝炎&B型肝炎混合ワクチンで0、4週間後、6ヶ月後に接種を行う。A型肝炎とB型肝炎のリスクが高い地域へ渡航される場合に混合ワクチンであり効率的に接種できる。

Twinrix接種禁忌

発熱者。過去の接種で重篤な副反応があった者。妊娠・授乳中の者には推奨しない。

Twinrixによる有害事象は一般的に軽微で数日で消失するものがほとんどである。よく見られる副反応としては局所の痛み、発赤、腫脹。倦怠感や頭痛、発熱、気分不良、吐き気、嘔吐も報告されている。

<Twinrixによるマイルドな副反応>

- ワクチン接種局所の痛み、発赤、腫脹、あざ、硬結、かゆみ
- 頭痛、倦怠感、発熱、めまい、睡眠障害、失神
- 気分不良、嘔吐、腹痛、下痢、食欲不振
- 咳、咽頭痛、呼吸器感染症状
- 耳鳴り、頸部硬直
- 発汗、悪寒戦慄、顔面紅潮、気分不良
- 筋肉痛、関節痛
- 急激な接種部位の疼痛、刺すようなまた、焼けるような感覚 等

<Twinrixによる稀ではあるが重篤な副反応>

- 四肢のしびれ、虚脱感また、指やつま先のチクチク感
- 全身硬直、視覚異常
- 腺の腫脹、予測しない出血、排尿困難
- 眼瞼下垂、顔面筋のたるみ
- 急激な頭痛、頸部硬直、明るい光への嫌悪 等

<頻度不明>

- 添付文書に記載はないもののワクチンでは常にアナフィラキシーショック等の重篤なアレルギー反応には十分な注意が必要

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

• 破傷風

破傷風菌は世界中の土壌の至る所に存在し、日本でも毎年患者が発生している。死亡率は30%～40%である。破傷風は傷口から感染するので、冒険旅行などで怪我をする可能性の高い者が対象。特に、途上国では、けがをしやすく命に関わることもり、接種を検討する。破傷風ワクチンは、1968年(昭和43年)から始まった3種混合ワクチン(ジフテリア、破傷風、百日せき)に含まれているので、定期予防接種で破傷風・ジフテリアワクチンを12歳の時に受けていれば、20代前半位までは免疫があり、接種は不要。その後は、1回の追加接種で10年間有効な免疫がつく。沈降破傷風トキソイドキット(国内産)は、過去接種歴のない者では、3回(0、3～8週、12ヶ月～18ヶ月で接種する。

- 輸入ワクチンを用いる予定はない。添付文書を用いて安全性情報を提供する。

• 日本脳炎

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスを保有する蚊に刺されることによって起こる重篤な急性脳炎で、死亡率が高く、後遺症を残すことも多い病気。流行地(東アジア、南アジア、東南アジア)へ行く者におすすめるワクチンである。ワクチンは1～4週間間隔で2回接種し、1年後追加接種を1回実施する(基礎免疫が完了)。基礎免疫の完了後は、1回の接種で4～5年間有効な免疫の効果が期待される。

- 輸入ワクチンを用いる予定はない。添付文書を用いて安全性情報を提供する。

• 狂犬病

狂犬病は、発病すればほぼ100%が死亡する病気である。海外では、オセアニアなど一部を除きイヌだけでなくキツネ、アライグマ、コウモリなどの動物に咬まれることによって感染する危険性が高く、長期滞在、研究者など動物と直接接触し感染の機会が多い場合や、奥地・秘境などへの渡航ですぐに医療機関にかかることができない者を対象に接種するワクチン。乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチンは4週間隔で2回接種し、さらに6か月から12か月後に3回目を接種する。輸入ワクチン3回タイプの狂犬病ワクチンRabipurは1週間隔で2回接種し、さらに4週後に3回目を接種すると国産ワクチンと同様の免疫効果が得られ渡航の出発日まで日数がない者が対象となる。

Rabipur接種禁忌

過去にRabipur接種でアレルギーが明らかなる者、重篤な鶏の卵にアレルギーがある者、ゼラチン、アンホテリシンB、クロルテトラサイクリン、ネオマイシンのアレルギーがある者

<一般的なRabipurの副反応>

●マイルドであり数日で消失する

- 接種部位の痛み発赤、腫脹
- 頭痛、発熱、倦怠感、全身の気分不良、インフルエンザ症状、悪寒戦慄、発汗多量
- 腋窩と腺の腫脹
- 筋肉痛、筋力低下、関節痛
- 吐き気、嘔吐、胃痙攣と痛み、発疹等

<気づいた時点で受診勧めるRabipurの副反応>

●稀である

- 頻脈や不整脈または紅潮
- 視野、色覚異常
- 手足のしびれ、痛み
- めまいや頭部ふらふら感
- 動きが制限される程度の筋力低下
- 動作不能、または体の様々な部分の感覚消失 等

<重篤なRabipurの副反応>

●非常に稀である

- アレルギー反応(かゆみ、発疹、腫脹)顔面、唇、舌、他の様々な部位の腫脹
- 呼吸困難
- 幻覚、意識障害、全身性麻痺、頭痛と高熱
- 行動、会話、目の動きの異常と光過敏性

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

・ コレラ

コレラが流行している国では、生水、氷、生の魚介類を避ける。氷の上に飾られたカットフルーツや誤って飲んだプールの水から感染した例もあり注意が必要。海外では、コレラに感染するリスクの高い渡航者に対し、経口コレラワクチン(不活化ワクチン)が使用されているが、日本では承認されている経口コレラワクチンはなく、一部医療機関では輸入ワクチンを接種している。[DUKORAL](#)は経口の不活化ワクチンで、病原性大腸菌による下痢症状と。コレラ菌による下痢症状の予防に効果が期待される。

DUKORAL禁忌

過去の接種で重篤な副反応があった者

<副反応(0.01~0.001%)>

- 下痢、胃痛、胃痙攣、お腹のゴロゴロ感、胃拡張、胃ガス充満、胃部不快感、頭痛

<稀な副反応(0.001%~0.0001%)>

- 高熱、全身気分不良、吐き気、嘔吐、食欲不振、鼻汁、咳、めまい

<とても稀な副反応(0.0001%以下)>

- 強い倦怠感、震え、重篤な下痢、関節痛、咽頭痛、味覚低下、発汗、不眠、全身の疼痛、蕁麻疹、様々なタイプの紅斑性湿疹、インフルエンザ様症状、筋力低下、寒気、呼吸困難、刺すような疼痛、脱水、顔面腫脹、高血圧、胸苦、かゆみ、腺やリンパ節の腫脹

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

• 腸チフス

腸チフスとパラチフスの症状はほぼ同じであるが、一般に、腸チフスに比べてパラチフスの症状の方が軽症である。感染して1～3週間は症状がなく、その後、高熱、頭痛、全身のだるさ、高熱時に数時間現れる胸や背中、腹の淡いピンク色の発疹、便秘などの症状が現れる。熱が高い割に脈が遅いのが特徴的である。重大な症状として、腸から出血したり、腸に穴が開いたりすることがある。腸チフスには有効なワクチンがあるが、日本では承認されていない。一部の医療機関では、外国から輸入したワクチンを接種している。なお、腸チフスのワクチンには、パラチフスの予防効果はない。Typhi菌に感染するリスクが高い地域への渡航者には、CDCは腸チフスワクチンの接種を推奨している。Vi莢膜多糖体ワクチン(ViCPS)はViCPSを使った基礎免疫ワクチンは、0.5 mL (25 mg)の用量を1回筋肉内接種する。追加接種は2年後となる。

Typhim Vi 接種禁忌

薬液の成分や、過去に同じワクチンでアレルギー症状がある者

Typhim Viは、ごく僅かな方に副反応が生じる可能性がある。殆どが48時間以内の接種部位の局所反応。ただし、次に示す反応が出現時は、担当医師へ申し出をする必要がある。

<一般的な副反応>

- 接種局所部位の痛みや不快感、発赤、刺すようなまた焼けるような痛み、硬い腫脹、硬いしこり
- 頭痛、倦怠感、全身の筋力低下
- 全身気分不良、活気不良
- 発熱、咽頭痛、筋肉鈍痛、背部痛、筋肉痛、筋力低下、関節痛
- 吐き気、嘔吐、下痢、胃痛
- 喘息

<稀な副反応>

- 急激に広がる紅斑や全身の痒み、顔面腫脹、舌、口唇や他の部位のアレルギー性の腫脹
- 息切れとwheezingや呼吸困難感

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

髄膜炎菌

- 1～14日の潜伏期間の後に、頭痛、発熱と、首を動かしにくくなる硬直が起こる。髄膜だけでなく、全身に細菌感染が及んでいるので、急激に症状が悪化し、精神状態が変化することがある。治療しなければ例外なく死に至る。ワクチンが有効、流行地域へ渡航する場合にはワクチン接種が勧められ、日本では平成27年5月からナメクトラ筋注のワクチンが実施できますが2歳～55歳までが接種適応年齢であり、添付文書を用いて安全性情報を提供する。また、輸入ワクチン(接種対象者:2歳以上)Mencebaxを準備し幅広い年齢に対応する。

Mencebax接種禁忌

高熱、急性疾患、過去の接種で危篤な副反応があった者

ほとんどが軽微な副反応だが稀に重篤な副反応が発生する可能性もある。ほとんどが接種局所の反応で48時間以内に自然軽快するが、医療処置が必要な場合はすみやかに受診する必要がある。

<一般的な副反応>

- 局所の疼痛、硬結、熱感、腫脹、焼けるような痛み、刺すような痛み、瘢痕
- 腺、リンパ節の赤みやかゆみのある腫脹、腋窩の腫脹
- 皮膚の紅潮と発赤
- 頭痛、めまい、疲れ感、虚弱、倦怠感、気分不良

<非常に稀であるが医療機関受診が必要な副反応>

- 四肢、顔面、眼、鼻粘膜、口腔内の腫脹
- 呼吸困難や誤下困難
- 重篤な皮膚反応で四肢のかゆみを伴う皮疹、硬結、特に耳周囲の発赤等
- 急激で重篤な倦怠感や虚弱
- 38度を超える発熱
- 神経学的異常 等

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

• 3種混合

Tdapは、思春期以後(成人を含む)を対処とした、ジフテリア・百日咳・破傷風 3種混合ワクチン。“Boostrix”は、10歳以上を対象としている。欧米では、主にTdap(ジフテリア・百日咳・破傷風)を、ブースターとして利用しており、残念ながら、日本のブースター接種では、百日咳ワクチンが抜けていた。よって日本から欧米へ留学する青少年は、留学先の定期予防接種スケジュールに準じたワクチン歴が要請される。DTを接種しても、Tdapを接種していなければ、定期予防接種として認められない。

Boostrix接種禁忌

高熱、危篤な急性疾患、過去にアナフィラキシー症状がある者

* アナフィラキシーのような重篤な副反応は極めて稀(最大0.0001%)

副反応 4歳～8歳

<非常によくある副反応(10%以上)>

- 接種局所の疼痛、発赤、腫脹
- 過敏性、興奮性、眠気、倦怠感

<よくある副反応(最大10%)>

- 食欲不振・頭痛・37.5以上の発熱・腫脹部位の大きな腫脹
- 嘔吐や下痢症状

<よくある副反応ではないが稀でもない(最大0.01%)>

- 上気道炎症状・注意力散漫・痒みを伴うめやに、結膜炎症状
- 皮膚の紅斑・硬いしこり

副反応 10歳以上で成人も含む

<非常によくある副反応(10%以上)>

- 接種局所の疼痛、発赤、腫脹
- 頭痛、倦怠感、前人の気分不良

<よくある副反応(最大10%)>

- 37.5以上の発熱・めまい感・吐き気・接種部位の硬結や化膿

<よくある副反応ではないが稀でもない(最大0.01%)>

- 39°C以上の発熱・激しい疼痛・関節と筋肉の硬直
- 嘔吐、下痢・関節の拘縮、関節痛、筋肉鈍痛
- 強い掻痒感、皮膚紅斑・過剰な発汗
- リンパ節や腺の腫脹、咽頭痛と飲み込みの不快感
- 上気道炎症状、咳
- 失神
- インフルエンザ様症状(高熱、咽頭痛、鼻汁、咳、悪寒)

特異な年齢での報告ではないが発生しうる副反応

- 顔面、口唇、口腔内、舌、咽頭の腫脹でそれに伴い飲み込みや呼吸困難となる
- 意識消失、痙攣、蕁麻疹、衰弱、気力低下

他、とても稀な頻度でGuillain-Barré 症候群(神経の炎症で麻痺や疼痛が生じる)

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

・ マラリア

マラリア原虫をもった蚊(ハマダラカ属)に刺されることで感染する病気。世界中の熱帯・亜熱帯地域で流行しており、2013年12月に公表された統計によると、1年間に約2億700万人が感染し、推計62万7,000人が死亡している。日本でも100人近くが輸入感染で発症している。1週間から4週間ほどの潜伏期間をおいて、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などの症状が出る。マラリアには4種類(熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリア)あり、その中でも、熱帯熱マラリアは発症から24時間以内に治療しないと重症化し、しばしば死に至る。脳症、腎症、肺水腫、出血傾向、重症貧血など、さまざまな合併症がみられる。流行地域への渡航予定の場合は予防内服マラロン錠の内服を検討する。輸入薬剤を用いる予定はない。添付文書を用いて安全性情報を提供する。

・ 高山病

高山病には山酔い、高所肺浮腫、高所脳浮腫の3種類あり、高山病の90%以上はこの山酔いで、命に別状はなく、放置すると高所肺浮腫、さらには高所脳浮腫となり、死に至ることもあるので、充分注意が必要。

Acetazolamideアセタゾラミド(商品名 Diamoxダイアモックス)を高地に上がる前に飲んでおけば山酔いを防止することが可能。また症状が現れてからでも服用すれば早急に改善される。但し、本剤を服用していても急速に高度を上げると高山病に陥ることもあり十分注意が必要。

投与量は250mgを1日2回高地に行く前日から服用する。輸入薬剤を用いる予定はない。添付文書を用いて安全性情報を提供する。(別紙資料:ダイアモックス添付文書)

本薬剤は高山病予防・治療ともに保険適応外であり、十分にインフォームド・コンセントで了解を得たうえで服用する。重大な副作用が出現した際には、医薬品副作用被害救済制度に申請し個別判断の対象となる。

• 麻疹

特別な治療法はなく、症状を軽くするための治療がなされる。まれに脳炎や肺炎で死亡することがある。予防接種が有効で、予防効果を確実にするためには、2回の接種が必要。予防接種を受けたことがなく、麻疹にかかったこともない場合には、ワクチン接種を受けることを推奨する。乾燥弱毒麻疹ワクチン「タケダ」を接種する。

輸入ワクチンを用いる予定はない。添付文書を用いて安全性情報を提供する。

• ポリオ(急性灰白髄炎)

ポリオウイルスによって、急性の麻痺が起こる病気。ポリオが流行しているアフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンのほか、ポリオが発生している国に渡航する者は追加接種を検討する。WHOでは、患者が発生している国に渡航する場合には、以前にポリオの予防接種を受けていても、渡航前に追加の接種をすすめている。特に、1975年(昭和50年)から1977年(昭和52年)生まれの人は、ポリオに対する免疫が低いことがわかっているので、海外に渡航する場合は、渡航先が流行国でなくても、渡航前の追加接種を検討する。

ニセ薬に注意！！

海外の薬局やマーケットで売られている薬のなかには、正規品ではなく、偽造品の場合があります。体調不良時にそのようなニセ薬を使うと、治療にならないばかりか、症状の悪化、予想外の危険が生じる場合もあります。適切に運営されている医療機関を通じて治療を受けるようにしましょう。



- ・慢性の病気がある場合には、日本国内で充分用意する。
 - ・薬は内容が容易に分かるように、元のパッケージのまま携帯。(入国に際し、内容の確認が求められる場合あり。)
 - ・処方された薬は、薬剤の商品名および薬剤名が記載された処方箋のコピー、およびその翻訳文を携行する。
 - ・かかりつけ医のメモを携行(規制された薬剤や注射薬について、処方した医師からレターヘッド付きの便箋に書いてもらう。)
 - ・ある種の薬剤は渡航先への持ち込みが認められないことがあり、前もって目的地の在日日本大使館や領事館に連絡や確認をする。
 - ・飛行機に搭乗する際、チェックインした荷物が紛失することもあるので、持ち込む手荷物の中にも薬を入れる。
- ※薬については、十分な手持ち量を確保しておく。

